

vol.33

2017年7月

Link つながる
 Live 生きる
 Learn 学ぶ
 Labour 労働
 Liberty 自由

エル・コンパス

宝塚市立男女共同参画センター・エルは、すべての人が個人として、性にとらわれず、自分らしくいきいきと充実した生活を送ることができる「男女共同参画社会」の実現を目指すための施策推進の拠点施設です。センターの愛称“エル”は上記の5つのLの頭文字をとったもので、市民からの公募で決定しました。

宝塚市立男女共同参画センター

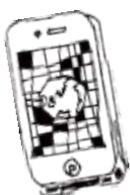
巻頭エッセイ「子どもと遊び」	1
特集 子どもたちに豊かな感性を！～宝塚ふぁみりい劇場の活動～	2
講座報告（男女共同参画スタディーズ 2017）	4
情報図書	5
講座案内	6
エル・フェスタのご案内など	8

----------*-----*-----* 子どもと遊び -----*-----*-----*

内閣府の10歳未満の子どものインターネット利用に関する実態調査の結果によると、年齢別では1歳の9.1%、2歳で28.2%、3歳で35.8%、9歳では65.8%に達しており、利用する内容は動画視聴が85.4%と最多で2位はゲームの65.8%だった。

1歳児の約1割、2歳児の約3割がスマホを遊び道具にしているとは驚きで、スマホ利用によるブルーライト、睡眠障害、学力低下など、子どもに与える悪影響を考えると心配だが、「利用させていいとは思っていないが、仕方がない」という親の事情も分かる気がして複雑な心境である。

「幼児期」は、一生のうちで最もいろいろなことを覚え、身につける時期であり、人間の行動の基本的なものは、幼児期に獲得されると言われている。



子どもが様々なことを体験し、身につけていく過程を「学習」というが、幼児の学習の基本は、好奇心や関心による大人の真似を含めた「遊び」によって獲得される。

遊びは、子どもの活動と学びの原点であり、自主性、協調、共感、役割、責任、他者との関わりも遊びで身につけていく。

幼児期の遊びの理想は、自然の中で年下や年上の子ども達との群れ遊びだが、実際は一歩外に出ると車社会で路上には子どもの遊び場はなく、外で駆けまわるような遊びから、家の中での一人遊びが目立つようになり、母親べったりで集団の中で「遊べない」子どもも現れている。親のストレスも増すだろう。

センターエルは男女共同参画社会づくりの拠点施設として様々な事業を展開しており、一般講座は「一時保育」ありを基本にしているが、今期新規事業として、センター入口右側に位置するエルズルームを「親子で過ごすエルズルーム」に改名し、幼児期の子どもが保護者と過ごせる場所にした。親子で情報コーナーの本を読んだり、子どもに絵本を読み聞かせたり、子ども同士で遊ぶなどと、センター内のささやかな「子どもの遊び場」として、ご利用いただけたら幸いである。

NPO 法人 女性と子どものエンパワメント関西 理事長

田上時子

子どもたちに豊かな感性を！

生の舞台鑑賞や体験あそびを通して「子どもたちが創造性を発揮し自主性や協調性、他人への思いやりなどがもてるように」という願いをこめて活動を続ける「宝塚ふぁみりい劇場」。当センターのイベントにも積極的に関わっていただいているのですが、メンバーの方々の結束力、段取り力、フットワークは見事なものです。今年で40周年を迎え、新しく代表、事務局となった喜多河恭子さんと栗山佳代さんにお話を伺いました。

●「宝塚ふぁみりい劇場」の誕生

今から50年ほど前、テレビに子どもたちの遊びが奪われることに危機感を持った親たちが「子どもたちに生の舞台を観せたい」という思いで、「おやこ劇場」「こども劇場」といった会員制の組織を作り始めました。その運動は全国に広がり、宝塚では、1977年4月に7~8人の母親たちにより「宝塚ふぁみりい劇場」（以後「ふぁみ劇」）という名称で活動がスタートしました。



毎月の会費で運営される会員制で、その活動は、舞台劇・人形劇・音楽・芸能などのプロのアーティストを地域に招き、身近なホールや会館でステージを鑑賞する『例会』と、親子キャンプやハイキング、工作まつりなど季節に応じた手作りの遊びを体験する『自主活動』とがあります。

●人との出会いや遊びの中で子どもが育つ

キャンプや季節ごとのさまざまな遊びの中には、中高生が中心となって自分たちで企画運営するものも多く、大人は彼らの自主性を尊重して任せて見守ります。ここで子どもたちが出会うのは、普段の家庭や学校での自分たちの姿を知らない人たちが多いためか、解放され、自由に伸び伸びしています。ほめられたり認められたりすることで、いろいろなことに挑戦でき、自信をつけていきます。小さい子どもたちは中高生たちからいろいろなことを学び、「次は自分たちも」という気持ちになっていくのです。こういった体験が震災後の東北支援といったボランティア活動などにつながっています。

大人にとっても、子どもを通じた学校がらみの付き合いとは違い、しがらみのない、ゆるやかなつながりを持つことができ、それは子育て時代を過ぎてもずっと付き合いが続いていきます。



●“会員のため”から

“地域の子どもたちのため”の活動へ

会員制の「ふぁみ劇」の活動は会員に限られたものでしたが、ここ数年は宝塚市文化財団、プラザ・コム、男女共同参画センターなど、市内の団体との協働（イベント共催）にも力をいれるようになってきました（センターのエル・フェスタ参加もその一例）。

今までは自分たちだけで独自のイベントを行ってきたのですが、地域の子どもをみんなで育てよう、という同じ想いや価値観を持った団体と共にイベントを作り上げていく、そういったつながりを大切にしていきたいと思っています。「会員のため」だけの活動が「地域の子どもたち」へと外に広がっていったのは、「ふぁみ劇」にとっては大きな変化です。

でも、会員すべてが地域の中で活動すること、つまり市民活動やボランティア活動をしたいと思っているとは限らず、「劇を観るために会費を払っているのに、なぜ地域のための活動をしなくてはならないのか」といった意見もあります。今後、運営の中心となっていく人たちに私たちの思いをどう伝えていくのか、あるいはまた会員のための活動に戻っていくのか、いろいろと試行錯誤しながらやっていきたいと思っています。



●時代の流れの中で変わってきたこと

私たちのように子どもが大学生、社会人になっても会員を続け、運営の中心となって活動していく人は多く、中には孫の代までの3世代で会員となっている人もいますが、会員数は減少しています。ピーク時は1000人以上だったのですが、現在は250人弱です。会員数の減少は全国のおやこ劇場も同様で、解散した団体や、存続はしているものの、活動自体はほとんどできていない団体も少なくありません。

～宝塚ふぁみりい劇場の活動～

それは、少子化のせいでもあります。親の価値観の違いにもよります。私たちは、舞台を観ることで、子どもたちに豊かな感性が育っていくと信じて活動しているのですが、それは成果として目に見えて子どもたちに表れてくるものではありません。ピアノのお稽古や英語のレッスンのように、練習すれば結果がでるものではないのに、「劇を観ることで優しい子どもに育ちますか？何かいいことがありますか？」と問われることがあります。

また、「ふぁみ劇」の活動は運営委員を中心として、会員のボランティアにより、手間暇かけてやっています。それを目の当たりにして「観劇を楽しむために会員になったのに、運営している人たちを見ていると、あんなに大変なのかと思ってしまう。私はあんなに活動できない」と躊躇してしまう人もいます。

●次世代につないでいくために

「ふぁみ劇」が40年も続いたのは、先人たちの熱い思いと努力のおかげです。会員が減少して資金的に厳しい状況にあっても、上演する作品の質は落とさず、そこで資金を調達するために、いろいろとところで出店したりフリマをする、助成金を獲得するなど、大変な努力をして守ってこられました。先人たちが守ってこられたものを、何とかして私たちも次の世代に伝えたいと思っています。

私たちより上の世代の「ふぁみ劇」を運営してきた人たちは、自分たちの自由になる時間のほとんどを活動にあててこられ、大変なこともあったけれど、それなりの達成感・充実感もあり、またそれによってご自分たちの成長を実感されてきたと思います。

今は働くお母さんが増えてきて、「ふぁみ劇」の活動に多くの時間をさける人はなかなかいません。実際、仕事をしながら代表や事務局など運営委員として関わることは時間的にも難しいのです。本来は小学生ぐらいの子どもを持つ現役のお母さんたちが中心となって、時代に合った運営をするのが望ましいと思います。私たちの子どもは大学生や社会人となっているので、今の子どもたちの感覚からずれている部分があるかもしれません。現役のお母さんたちが、働きながらも「ふぁみ劇」の運営をしていけるように、いろいろと試しています。例えば、事務局に集中していた仕事を何人かに振り分けたり、運営委員の仕事を簡素化するなど。理想としては、代表や事務局、運営委員は数年ごとに交代しながら活動を続けていくことです。

お母さんたちの価値観が変わったとは思いますが、はじめて「ふぁみ劇」の舞台に出会い、その後繰り返し観劇に来てくれる人たちの存在に、手ごたえを感じる瞬間もあります。こんな時代だからこそ、子どもたちの感性を豊かにする「ふぁみ劇」の活動を次世代に引き継いでいきたいと強く思います。



宝塚ふぁみりい劇場

〒665-0842 宝塚市川面4丁目9-5

TEL/FAX 0797-87-0628

入会金 1000円(1家庭)

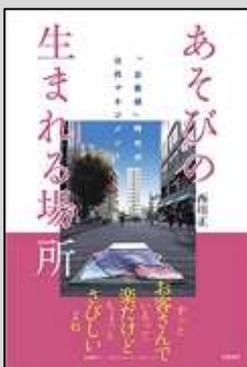
月会費 1000円/人(4歳以上)

原則として、親子で会員になります。

中高生以上、大人だけの会員も歓迎です。

おすすめの本

子育てや子育ての現場で「何かあったら困るので」ということばに出会うたび、著者が悩み、考え、動いてきたことの記録です。お役所仕事化、サービス産業化、市場化という視点で、公共空間から「あそび」が消えていく現状とその構造を分析します。なぜ公園に禁止の看板が増えていくのか、託児などの現場でなぜ苦情が増えていくのかなど、住民が「お客様」になっていくことの問題点を探っていきます。そして著者自身が実践した試みや、全国のさまざまな「あそびの生まれる場所」を紹介することで、どうすれば多くの人がかかわる場を、魅力的な場、遊びの生まれる空間にしていくことができるのかについて提案されています。



あそびの生まれる場所

「お客様」時代の公共マネジメント

西川正・著

ころから (2017年3月)

日本は、世界経済フォーラムが発表した「男女平等ランキング2016」で、144か国中111位。男女の格差が大きくなる背景と問題点、女性が活躍できるようになるには何が必要かを、考えてみました。

前近代・近代・現代にわたる家族にかかわる歴史をジェンダーの視点からみていくと、戦後の1950年代前半から1970年代前半の高度成長期に性別役割分業が成立したことがわかります。それに合わせた夫婦世帯単位の社会保障や、被扶養の妻子があることを前提にした男性労働者モデルは、今の日本の社会システムの中ではそぐわなくなってきました。

- 家族から考える視点が大変興味深く、勉強になりました。特に日本の歴史や災害・政策による影響などはきちんと整理して学ぶ機会がないので良かった。
- 前近代の家族の話はたいへん興味深かった。1955年～1975年の20年が特別の時代ということも改めて実感しました。
- 高度成長期の政府の人口抑圧策について興味をもちました。

①「ジェンダー学への招待」

『家族』から考える

戦前から戦中・戦後、高度成長期から現在まで、女性に求められてきた生き方、押し付けられている価値観と労働の関係を多くのデータ資料から読み解くことで「女性の貧困」の原因がわかってきます。さらに女性の貧困問題が顕著に表れているシングルマザーの状況は、その就労形態や収入などの数字から具体的に知ることができ、経済的貧困とともに社会的貧困（女性に対する価値観の変更と女性蔑視）をなくすことが必要であることがわかります。

- 社会が抱える問題を冷静に理解することができました。データから、いかに母子・子どもが危機的な状況であるということがわかりました。
- 日本の家制度、女性差別、婚外子差別、女性の貧困などがつながっていることがよくわかりました。30年間、家庭でケア労働→感情労働をしてきた自分に改めて気づくことができました。
- 日本社会の様々な問題を凝縮して話してくださった。同時に私自身もその中に組み込まれていると思いました。

②「女性と貧困」

格差社会の中で

女性労働という側面から「女性の活躍」が必要な理由とそれが推進されない要因を、「男性は外で働き、女性は家庭を守る」という日本の雇用慣行との関係から考えました。「女性の社会進出+男性の家庭進出」「働き方改革+暮らし方改革」が必要です。また、仕事で女性も男性と同じレベルにつくとか、家庭も仕事も完璧にこなそうと無理をしないと、女性自身の意識改革が必要です。

- 数字を読み解くコツや参考文献も教えていただいたので面白かったです。
- まだまだ今の社会には男・女に対する思い込みが残っているので、難しいところもあるが、これから意識も順次変化していくことが楽しみです。私はまず女性が経済的自立をしていくことが何より大切だと思います。
- 日本社会の「長時間労働」これを経営者・組織が本気でなくしていくことが重要だと思います。

③「二極化する女性の労働」

『女性活躍推進』のキーワードとは

誰もが生きやすい社会とは、女性、男性、そのいずれでもないことに関わりなく、その個性や能力を発揮できる社会で、生き方を押し付けられるのではなく、自分らしい生き方を自分で決められる社会です。これは、自分で求めていくもので、「手にするんだ!」という思いがないと成し遂げられません。

- 人権について、とても詳しく学ぶことができました。エンパワメントと自尊感情、ともに新たな気づきでした。
- 自分の感情に気づき、どう感じてるかを知ることで、自分はこれでいいんだと思えることができる、ということがわかりました。

④「ジェンダー平等とエンパワメント」

誰もが生きやすい社会をめざして

情報図書

図書の紹介

図書の貸出には

「図書利用者カード」の発行が必要です
ひとり3冊 2週間まで借りられます

今回は「結婚」「家族」「性別役割分担」などについて、それぞれ違ったアプローチの本を紹介します。いろいろな角度から考えてみると、面白いです。



●入門 家族社会学

永田夏来・松木洋人 新泉社 (2017/4)

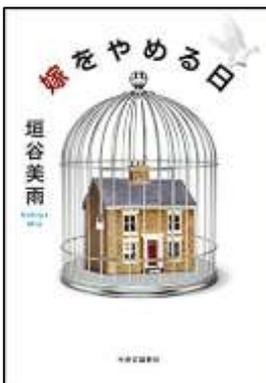
「家族社会学って難しそう」「家族でいることを息苦しく感じるのはなぜ？」こんなことを考えている人におすすめの本です。恋愛と結婚、介護、子どもの貧困、セクシュアルマイノリティといった身近な話題を「家族」という切り口で、それぞれの分野の第一線で活躍する研究者たちが論じています。「東京タラレバ娘」「逃げるは恥だが役にたつ」といったドラマ（コミック）の話や「保育園落ちた…」のブログがきっかけとなった抗議行動についてなど、身近な話題からのアプローチはわかりやすく、家族社会学の面白さを発見できます。



●ルポ 父親たちの葛藤 仕事と家庭の両立は夢なのか

おおたとしまさ PHP 研究所 (2016/6)

父親の育児・家事に関する状況はこの10年、あまり代わり映えしていません。「イクメン」が単なるブームだったと言われても仕方のないような状況です。本書では、数々のデータとともに、仕事と家庭の板挟みに悩む男性たちの本音、彼らに苛立つ妻たちの本音、そして会社側の理屈など、現在の男性の置かれた立場を客観的に見ることで、この状況を変えるヒントを提案しています。「大切なのは、頑張るよりも何かを手放す勇気だ。自分にとって譲れないものは何かがあれば必ずと道は出てくるはずだ。」と著者は語っています。



●嫁をやめる日

垣谷美雨 中央公論新社 (2017/3)

最近、関心が高まっている「死後離婚」。正しくは「婚姻関係終了届」を出すことで、配偶者の死後、「姻族」（配偶者側の血縁者）との関係を解消できるものです。この物語は、長崎に住む主人公夏葉子の夫が急死したところから始まります。夏葉子の実家は東京ですが、このままひとり、長崎で暮らすつもりでいます。ところが優しく物わかりのよかった義両親や親せき一同との関係に重苦しさを感ずるようになります。夏葉子の下す決断は…。嫁姑問題というより、人との関係性の持ち方や生き方について考えさせられます。長崎弁が心地いい。



●昨夜のカレー、明日のパン

木皿泉 河出書房新社 (2013/4)

こちら「夫が亡くなり残された嫁」が登場しますが、上記の「嫁をやめる日」とは環境が正反対といえるかもしれません。7年前、結婚から2年目の25歳で突然亡くなった夫。残された嫁テツコは、その後もギフ（義父のことをこう呼んでいます）と同じ屋根の下で暮らしています。二人やそれを取り巻く人たちの丁寧な暮らしぶり、つぶやく何気ない言葉、静かな時間の流れを感じさせる情景描写が心にしみみます。ハラハラドキドキするような場面はありませんが、読んだ後は、切ないけれど、穏やかに心が落ち着きます。

講座案内

7月~11月

講座はすべて

参加費・保育は無料です

申込み電話番号：0797-86-4006

サポート・グループ

開催中

7月7日~8月4日(金曜日)全5回 10:00~12:00

‘おひとりさま’の暮らし ~女縁で豊かな人生を!~

高齢女性の5人に1人が一人暮らしといわれる現代。老後の不安はつきないけれど、これからの人生を明るく前向きに、私らしく生きていくためにはどうしたらいいのか、サポート・グループで話し合ってみます。

- ファシリテーター：宮本由起代さん(NPO法人心のサポート・ステーション 代表理事/カウンセラー)
- 対象：テーマに悩む または関心のある女性 12人(原則として全回参加できる方)
- 保育：10人(1歳~就学前まで) 要予約・先着順

ほっとサロン

7月・9月・11月・1月(平成30年)(木曜日) 13:30~15:30

親子で楽しむキッズルーム

プレイルームでお子さんを遊ばせながら、気になることを話し合ってみませんか。子育てが楽しくなるヒントがきっと見つかります。

開催日	7月20日(木)	9月21日(木)	11月16日(木)	1月18日(木) 平成30年
受付開始日	7月3日(月)	9月1日(金)	11月1日(水)	12月21日(木)

- 対象：乳幼児とその保護者 10組
- スタッフ：NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西 スタッフ

ほっとサロン

8月1日(火)から受付

8月30日(水曜日) 13:30~15:30

わたしに戻る 読書の時間

情報・図書コーナーにある図書や雑誌を読んでリフレッシュ、子育てからちょっと一息して、時には『ママ』から『わたし』に戻る時間を過ごしてみませんか。

- 対象：子育て中の女性 20人
- 保育：15人(1歳~就学前まで) 要予約・先着順

起業・就労支援セミナー

受付中

9月8日・15日・22日(金曜日) 全3回 10:00~12:00

子育て世代女性のための Myライフ Myワーキング ~再就職をめざして~

結婚や出産で離職してブランクがある、そろそろ働きたいと思っているけれど不安…そんな方たちに向けての講座です。子育てしながら、自分らしい生き方・働き方を探して新しい一歩を踏みだしてみませんか。

9月8日(金)	~もう一度働きたい そのために~ 社会復帰に必要な準備について 井上栄子さん(株式会社オフィス奏 代表取締役社長)
9月15日(金)	制度が変わる今がチャンス! 私らしく働くには? 能登将史さん(能登社会保険労務士事務所 代表)
9月22日(金)	履歴書・職務経歴書のポイント ワンランク上の書き方を身につける 井上栄子さん(株式会社オフィス奏 代表取締役社長)

- 対象：再就職をめざす女性 30人
- 保育：10人(1歳~就学前まで) 要予約・先着順

講座案内

7月~11月

講座はすべて
参加費・保育は無料です
申込み電話番号：0797-86-4006

親子育ちセミナー

8月1日（火）から受付

9月23日（土）・24日（日） 全2日間

3歳からのCAPワークショップ

CAPとは子どもが暴力から自分を守るためのプログラムです。就学前のプログラムでは、人形を使い楽しく安心して学べるよう配慮しています。子どもへの暴力は、小さな子どもが標的となるケースが多く早い時期からCAPを学ぶことが有効です。

こどもワーク（3歳～就学前の子ども） 15人 ※子どもが参加される場合は必ず保護者の大人ワークへの参加が必要です。

9月23日（土）13:30～15:00：子どもの権利・いじめロールプレイ・誘拐ロールプレイ

9月24日（日）13:30～14:00：性暴力ロールプレイ ※保護者は別室で待機

大人ワーク（子どもに関わる大人の方・保護者） 30人

9月23日（土）13:30～15:00：子どもへの暴力とは・CAPについて・ロールプレイの実演など

●保育：10人（1歳～就学前まで） 要予約・先着順 ※9月23日のみ

男性セミナー

9月1日（金）から受付

10月28日（土曜日） 10:00～12:00

学び、考え、語り合う！父親と育児の心理学

メディアにおける父親像の変遷や、父親の育児に役立つ心理学の話を紹介しつつ、これまでの一般的な父親像を振り返り、これからの理想的な父親像について展望します。

●講師：家島明彦さん（大阪大学全学教育推進機構講師・認定心理士・キャリアカウンセラー）

●対象：テーマに関心のある男性 30人 ●保育：10人（1歳～就学前まで） 要予約・先着順

情報リテラシー

10月2日（月）から受付

11月25日（土曜日） 13:30～15:30

コマーシャルの中の女性たち

テレビ・コマーシャルの考古学 ～昭和30年～40年代のCMアーカイブスから～

1950年代を中心とした膨大な初期テレビCMが、関西の研究者たちによってデータベースとして収集・構築されました。その中から、「洗濯という営み」に焦点をあて、20本以上のCMデータベースから当時の社会や文化を読み解きます。

●講師：石田佐恵子さん（大阪市立大学大学院文学研究科教授）

●対象：テーマに関心のある人 30人 ●保育：10人（1歳～就学前まで） 要予約・先着順

男女共同参画プラン推進フォーラム

上野千鶴子さん 講演会

※詳細は、ホームページでお知らせします。

12月10日（日）13:30～16:30

会場：ソリオホール
10月2日（月）から受付

市民力開発講座

私たちの‘エンディング’を考える 11月17日～12月15日 金曜日 全5回

エル・フェスタ

8月26日(土) 10:00~15:30

8/1(火)から受付 詳しくはHPをご覧ください。

主催：宝塚男女共同参画センター連絡協議会・宝塚市立男女共同参画センター 予当：予約・当日受付 一部有料

雑巾ちくちく縫いとポーチへボタンつけ 10:00~12:00	あそびの広場 13:00~15:00
フリーマーケット 10:00~13:00	音楽に合わせて 英語を楽しもう 13:00~13:30/14:00~14:30 予当
オープンプレイルーム 親子で遊ぼう!! 10:00~14:00	しんちゃんとやっちゃんの腹話術 13:15~13:30/14:00~14:15
親子でふれ合おう リズム&マッサージ 10:30~11:30 予当	親子で楽しむ 絵本の時間 13:30~14:15 予当
人形劇「かえるのピュリエットとピュリオ」 10:30~11:30 予当	チャレンジ! 自転車発電 13:30~15:30
マジックとバルーンアートで笑顔いっぱい! 11:45~12:45	夏休み 作って遊ぼう!! <工作> 13:30~15:30

●喫茶(コーヒー・パン): 10:30~14:30

●ホットドッグの販売: 11:30~12:30

★小さな子どもさんのためのスペースをオープンしました!

親子ですごく エルズルーム

ご利用は保護者の方と一緒をお願いします。
子どもさんと一緒に情報・図書コーナーの絵本を
読むなどして、ゆっくりすごしていただけます。
ご利用時間内、出入りは自由です。



利用時間: 9:00~16:00

(月曜日~土曜日 ※日・祝日はのぞく)

宝塚市立男女共同参画センター・エル

宝塚市指定管理者

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西

開館時間: 月曜日~土曜日 (9:00~21:00)

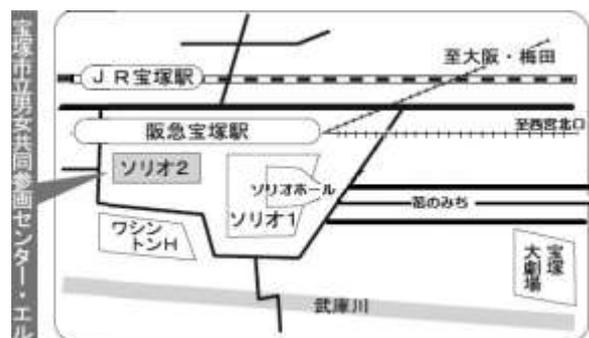
日曜日・祝日 (9:00~17:00)

休館日: 毎月第2日曜日・年末年始

〒665-0845 宝塚市栄町2-1-2「ソリオ2」4階

TEL: 0797-86-4006 FAX: 0797-83-2424

メール: elsenternpo-empower@takarazuka-ell.jp



ホームページ: <http://www.takarazuka-ell.jp/>